

内部質保証最終報告

(2) 研究部会

令和3年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 生命医学研究所運営委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 生命医学研究所長 木 梨 達 雄

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会による点検・評価
<p>目標・計画</p>	<p>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <p>研究部門毎に以下の課題を設定する。</p> <p>[分子遺伝学部門] 学部生に対する免疫学講義、研究医養成コース・大学院等の教育、競争的研究資金獲得とそれによる研究を推進する。（数値目標：新規課題2～3件、論文投稿数3報を目指す）</p> <p>[生体情報部門] 本学における研究活動の活発化・高度化を推進する。（数値目標：外部資金獲得新規2件、国際誌への2報以上の発表を目指す）</p> <p>[モデル動物部門] 疾患モデル動物を用いた共同研究を推進する。（数値目標：研究資金獲得1件、学術誌への掲載1報）</p> <p>[神経機能部門] 先天的恐怖臭が誘導する人工冬眠・生命保護作用に関して、本現象を制御する脳の神経回路と細胞並びに遺伝子を解明する。また、本現象の免疫状態への影響を解明する。匂い分子を用いた感覚創薬技術に関する実用化を目指した共同研究を進める。（数値目標：新たな外部資金の3件以上の獲得。国際誌への3報以上の論文発表。）</p> <p>[侵襲反応制御部門] 研究医養成コース履修者・大学院在籍者への教育・研究指導に加え、外部競争的資金の獲得および学内における共同研究体制の一層の強化を図り、研究課題の推進に努める。（数値目標：外部資金獲得新規2件、査読誌への掲載3報、学会発表3件）</p> <p>[ゲノム解析部門] ゲノム医科学講義、リサーチマインド実践講義、大学院共通コース、ゲノム医科学分野修士課程等による学部生・大学院生への教育、及び、網羅的ゲノム解析による希少難治性疾患の遺伝的要因の解明を推進する。（数値目標：外部資金獲得1件、国際誌への掲載4報、学会発表3件、ゲノム解析100検体）</p> <p>[ゲノム編集部門] 数値目標：外部資金獲得2件、査読誌への掲載1報、学会発表2件、ゲノム改変動物及び細胞株樹立目標数10系統</p> <p>[細胞機能部門] 研究と学部生への講義、実習、研究・産学連携指導により、本学における教育・研究活動・成果の社会還元を推進する。（数値目標：外部獲得資金1件、産学連携による成果の社会還元2件、原著論文1報。）</p> <p>②事業計画の実行課題 外部資金の獲得と研究の活性化による成果の学会又は論文等への発表。</p> <p>③自己点検評価報告書の問題点 なし</p>	<p>令和3年9月24日開催委員会において承認</p>
<p>中間報告</p>	<p>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <p>[分子遺伝学部門] 科研費課題6件（新規2件、継続4件）、AMED課題2件（継続代表1件、新規分担1件）、JST課題新規1件（代表）を獲得、KMUコンソーシアム課題3件（代表1件、分担2件）に採択された。国際誌に4報（原著論文3報、総説1報）を掲載するとともに、国内学会（日本分子生物学会、日本生化学会、日本免疫学会）で4件の成果発表を行った。</p> <p>[生体情報部門] 外部資金として、文科省科研費・若手研究1件を獲得した。研究発表に関しては、国際誌に2報（Biol. Pharm. Bull., 2021, vol44: 910-919; Sci. Rep., 2021, vol.11: 19391）原著論文を掲載したほか、国内学会（日本分子生物学会・日本免疫学会）で3件の発表を行った。</p> <p>[モデル動物部門] 本学の動物実験に関する外部検証に協力し、対応した。また、学内外共同研究を進め、研究資金を3件（代表1件、分担2件）獲得し、学術論文11本（原著論文4本、日本語総説7本）を発表した。令和4年度日本実験動物学会奨励賞受賞内定。</p> <p>[神経機能部門] 外部資金として、科研費・基盤B2件、AMED橋渡しpreB、AMED-CRESTを新規で獲得した。国際誌に3報の原著論文（Nat Commun. 2報, ESC Heart Fail. 1報）を掲載するとともに、1件の国際特許出願を行った。日本神経科学大会CKJ国際会議のSymposiumをオーガナイズした他、3件の招待講演、4件の学会発表（日本神経科学大会）を行った。</p> <p>[侵襲反応制御部門] 科研費6課題（新規1、継続5）について研究を遂行し、国際誌（原著論文2報、総説4報）および国内誌（総説1報）への論文掲載、書籍の分担執筆（2報）等の成果をあげることができた。KMU研究コンソーシアムをはじめとする学内共同研究を推進し、論文投稿（4報）とともに学会における成果発表を行った。</p> <p>[ゲノム解析部門]</p>	<p>令和4年1月31日開催委員会において承認</p> <p>・[細胞機能部門]の部門廃止 ⇒ 令和3年度で廃止される旨を最終報告に明記してください。</p>

	<p>病因と病態、リサーチマインド実践、大学院共通コース、ゲノム医科学分野修士課程等による学部生・大学院生への教育に努めた。また、現時点で当初の数値目標以上の研究実績（外部資金獲得1件、国際誌への掲載9報、学会発表4件、オミックス解析179検体）を達成している。</p> <p>[ゲノム編集部門] ゲノム解析部門の解析により発見された疾患関連遺伝子変異に関して、ゲノム編集により変異マウス及び細胞株を作製し、生体及び細胞レベルでの解析を行う共同研究を推進している。現在までに、外部資金獲得1件、査読誌への掲載1報、学会発表1件、ゲノム改変動物及び細胞株樹立数9系統を達成している。</p>	
<p>最終報告</p>	<p>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <p>[分子遺伝学部門] 科研費課題6件（新規2件、継続4件）、AMED課題2件（継続代表1件、新規分担1件）、JST課題新規1件（代表）を獲得、KMUコンソーシアム課題3件（代表1件、分担2件）に採択された。国際誌に4報（原著論文3報、総説1報）を掲載するとともに、国内学会（日本分子生物学会、日本生化学会、日本免疫学会）で4件の成果発表を行った。</p> <p>[生体情報部門] リサーチマインドの実践セミナーや、修士講義・大学院共通コースならびに技術セミナーなどを通じて、学部生・大学院生への教育に努めた。研究に関しては、外部資金として文科省科研費3件（新規代表1件・継続代表1件・継続分担1件）に採択されたほか、国際誌に2報原著論文を掲載すると共に国内学会・研究会（日本分子生物学会・日本免疫学会・KTCC・先端モデル動物）で6件の発表を行った。</p> <p>[モデル動物部門] 本学の動物実験に関する外部検証に協力・対応した。学内外共同研究を進めており、外部研究資金（科研費；新規：代表1件、分担2件、継続：代表1件、分担1件、研究助成；継続2件）を獲得し、学術論文発表（原著論文5報、和文総説8報）、学会発表（3件）を行った。また学術論文査読（4件）、科研費査読（学内、4件）、関西医科大学医学会賞審査委員を務めた。リサーチマインドの実践、大学院共通コース、免疫学講義等による学部生・大学院生への教育、入試業務を努めた。</p> <p>[神経機能部門] 外部資金として、科研費・基盤B2件、AMED橋渡しpreB、AMED-CRESTを新規で獲得した。国際誌に3報の原著論文(Nat Commun. 2報, ESC Heart Fail. 1報)を掲載するとともに、1件の国際特許出願を行った。日本神経科学大会CKJ国際会議のSymposiumをオーガナイズした他、3件の招待講演、4件の学会発表（日本神経科学大会）を行った。</p> <p>[侵襲反応制御部門] 研究資金として科研費課題6件（新規1、継続5）、KMU研究コンソーシアム課題1件（分担）、学内助成1件を獲得し、国際誌（原著論文2報、総説4報）および国内誌（総説1報）への論文掲載、書籍の分担執筆（2報）等の成果をあげた。学内共同研究並びに研究医養成コース履修者の研究成果について、論文投稿（5報）と学会発表を行った。</p> <p>[ゲノム解析部門] 病因と病態、リサーチマインド実践、大学院共通コース、ゲノム医科学分野修士課程等による学部生・大学院生への教育を遂行した。科研費（代表1件、分担1件）、AMED（分担2件）、KMUコンソーシアム（分担3件）を獲得し、国際誌10報、書籍分担執筆1報の掲載、ならびに、学会発表4件を行った。学内外との共同研究において、計311検体のオミックス解析を実施した。</p> <p>[ゲノム編集部門] ゲノム解析部門の解析により発見された疾患関連遺伝子変異に関して、ゲノム編集により変異マウス及び細胞株を作製し、生体及び細胞レベルでの解析を行う共同研究を推進することでヒトの疾患関連変異の可能性を示唆する変異マウスを2系統作製した。今年度は、外部資金獲得1件、査読誌への掲載2報、学会発表1件、ゲノム改変動物及び細胞株樹立数15系統を達成した。</p> <p>[細胞機能部門] 令和3年度で廃止となった。</p> <p>[がん生物学部門] 研究資金として、科研費課題1件（継続代表1件）、AMED課題3件（継続代表1件、継続分担2件）、財団助成金2件を獲得した。国際誌への原著論文4報（in press含む）、和文総説1報を発表し、国内学会発表を4件（日本がん分子標的治療学会、日本がん転移学会、日本癌学会、日本分子生物学会）行った。</p>	<p>令和4年2月28日開催委員会において承認</p>
<p>自己評価</p>	<p>成果</p> <p>[分子遺伝学部門] 目標をほぼ達成することができた。</p> <p>[生体情報部門] 教育・研究の両面において、当初の目標を概ねクリアすることが出来た。</p> <p>[モデル動物部門] 円滑な実験動物施設運営に貢献した。また学内外共同研究成果を多数公表した。特に学術論文では5報すべて筆頭著者で、うち2報は責任著者であり、当初の目標を大きく超える成果となった。疾患モデルを用いた研究活動が評価され、令和4年度日本実験動物学会奨励賞に内定された。</p> <p>[神経機能部門] 外部資金として、科研費・基盤B2件、AMED橋渡しpreB、AMED-CRESTを新規で獲得した。国際誌に3報の原著論文(Nat Commun. 2報, ESC Heart Fail. 1報)を掲載するとともに、1件の国際特許出願を行った。日本神経科学大会CKJ国際会議のSymposiumをオーガナイズした他、3件の招待講演、4件の学会発表（日本神経科学大会）を行った。</p> <p>[侵襲反応制御部門] 研究資金の獲得および成果発表に関し、ほぼ目標通りの実績を達成することができた。他講座との連携強化に加え研究医養成コース所属学部生の成果を査読誌に投稿するなど本学における研究推進に大きく貢献した。</p> <p>[ゲノム解析部門] 当初の目標以上の成果を達成することができた。来年度も研究支援を継続し、本学研究力の底上げに貢献する。</p> <p>[ゲノム編集部門] 計画した目標をほぼ達成することができた。特に、ゲノム改変動物及び細胞株樹立数に関しては当初の計画を大きく上回る成果を上げることができた。また、今年度はゲノム解析部門で発見された疾患関連遺伝子変異に関して、ゲノム編集による生体及び細胞レベルでの機能解析を行うことができた。来年度以降、このような解析をさらに行うことができれば、本学で行う研究レベルを飛躍的に向上させることが可能である。</p>	

	<p>[がん生物学部門] 7月着任からの研究室セットアップを概ね完了し、助教1名を新たに採用し研究体制を整えた。新たな外部資金獲得や学内外の共同研究にも着手しており、着任初年度としての目標を概ね達成できた。</p>	
<p style="text-align: center;">課 題</p>	<p>[分子遺伝学部門] 今年度の成果をもとに引き続き教育、研究業務の目標を設定する。</p> <p>[生体情報部門] 外部資金の新規獲得件数が目標に届かなかったため、外部資金獲得に直接結びつけられるよう、より高度なレベルでの研究推進を進めたい。</p> <p>[モデル動物部門] 外部研究資金の獲得、研究成果発表を継続して行いKMUブランディングの強化に貢献する。また大学運営・教育においても積極的な貢献に努めていく必要がある。また、次年度は新たな疾患モデル動物の開発・導入を目指し既に準備を進めている。</p> <p>[神経機能部門] 来年度は、本年度に引き続いて、来年度も感覚刺激が誘導する潜在的な生命保護作用の作用機序に関する解明を進めると共に、臨床実用化に向けた共同研究を実施する必要がある。</p> <p>[侵襲反応制御部門] 得られた知見および解析技術等の成果を更に発展させ、病態理解や診断法開発に繋がる新たな研究展開が求められる。</p> <p>[ゲノム解析部門] 共同研究課題が増加傾向にあり、解析を担当する人員が不足しつつある。</p> <p>[ゲノム編集部門] さらに研究成果を上げるためには、研究員もしくは技術補佐員によるサポート及び研究の推進が必要と考えられる。これを実現するために、大型の研究費の獲得を目指す必要がある。来年度以降、より大型の研究費の獲得を目指す。</p> <p>[がん生物学部門] 今年度で終了する研究資金が多いため、来年度は新たな研究資金の獲得を行う必要がある。また、研究を行う人員の確保のため、学生のリクルートを積極的に行う。</p>	

令和3年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 総合研究施設運営委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 総合研究施設長 小林 拓也

		委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会による点検・評価
目標・計画		<p>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> i 実験機器の導入と運用 オンラインを活用し多人数を避けることで、安全なセミナー・デモを開催し、最新の情報を提供するなど、利用者の研究の推進に貢献する。（数値目標：新規機器の導入1件） ii 次世代シーケンサーの利用促進 運営費を有効に活用し、新規利用者の増加を図る。 iii バイオバンクセンターの運営 利用規約に乗っ取り適正な運用を図る。 iv BH室の運営 SARS-CoV-2を適正に扱うため、利用者の使用ルール遵守を徹底する <p>②事業計画の実行課題 次世代シーケンサーの利用促進を図るとともに、バイオバンクセンターの適正な運用を図る。</p> <p>③自己点検評価報告書の問題点 なし</p>	令和3年9月24日開催委員会において承認
中間報告		<p>① i セミナー等については、オンラインを活用し最新の情報提供を行った。新規機器の導入については私学2/3助成採択により装置の購入手続きが進行中である。ii 運営費による試薬購入補助（7講座）・RNA調整用試薬の綜研での共同購入を行い利用促進に貢献した。iii 適正な運用が行われている。運用にあたり疑問点・改善点などが出た際はバイオバンク運営委員会で都度審議されている。iv 現在、病原性微生物安全管理委員会委員長大隈教授のもと、病原性微生物等管理規定の改定中である。改定後は、規定に則り運用予定である。②については、① ii, iiiを参照されたい。</p>	令和4年1月31日開催委員会において承認
最終報告		<p>中間報告で承認されたものに加え、</p> <p>① i 綜研機器備品費により高速冷却遠心機の更新、画像解析ソフト Imaris の更新を年度内に行う予定である。 ii RNA調整用試薬の共同購入については、本学での次世代利用者だけでなく、他の研究機関や外注で実験を行う利用者のサンプルの精度の確定等にも用いられ、綜研として購入の意義が認められる。 iii 蔓延防止措置等の発布中はリモートやメール審議等を活用し、運用の際の疑問点などは都度審議されている。利用者は増加傾向にある。 iv 2月14日に病原微生物安全管理委員会が開催されるため、その結果を見て、今後のBH室の運用にあたる予定である。</p> <p>②については、① ii, iiiを参照されたい。</p>	令和4年2月28日開催委員会において承認
自己評価	成果	<p>最終報告の通り、概ね目標は達成されたと考える。</p> <p>BH室の運営については、病原微生物安全管理委員会の方針に従う予定である。</p> <p>リモートによるセミナー・機器説明会の導入、対面が必要な場合には人数制限を厳格にするなど、コロナ下での研究活動の支援に貢献できたと思う。</p>	
	課題	<p>助成金で購入した機器の更新及びメンテナンス費用・購入価格500万円以下の機器の更新・BH室の空調装置の経年劣化への対応などが今後の課題である。導入後10年経過する前に更新・オーバーホールなどを計画的に実施することが必要。</p> <p>各種FCM装置や質量分析装置などメンテナンスフィーが高額となる装置については、保守契約を締結することが望ましい。</p>	

令和3年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 動物実験管理委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 実験動物飼育共同施設長 平野伸二

		委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
目標・ 計画		<p>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> i 自己点検評価を基に適正な動物実験環境の整備を更に進める。 ii 施設の改善と感染事故対策による管理体制強化 保有機器等のメンテナンスを定期的に行うとともに、施設課と連携して設備の修繕をしていく。実験動物の感染事故対策については、今後も一層の努力を続けて行く。（数値目標：感染事故0を維持する。）また、新型コロナウイルス感染症に対する予防対策や事態への対応方針を確立して行く。 iii 施設利用の指導徹底 新型コロナウイルス感染症の流行下でも、新規及び既存の利用者への指導や教育に力を入れて行く。 iv 動物実験委員会と連携して、日本実験動物学会が実施する外部検証を受審する予定である。 <p>②事業計画の実行課題 感染事故防止対策の強化を図る。</p> <p>③自己点検評価報告書の問題点 なし</p>	令和3年9月24日開催委員会において承認
	中間 報告	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検評価を基に動物実験環境の整備に努め、動物実験委員会・実験動物管理者の協力のもと、外部検証の現地立会いに対応した。現在、報告書を受信予定である。 ・保有機器のメンテナンスは、現状を把握し適時に施設課と連携しながら定期点検及び修理等に対応している。 ・感染対策においては、強化継続中である。 	令和4年1月31日開催委員会において承認
最終 報告	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検評価を基に動物実験環境の整備に努め、動物実験委員会・実験動物管理者の協力のもと、外部検証の現地立会いに対応した。現在 外部検証を認定される見込みである。 ・保有機器の現状を把握し適時に施設課と連携しながら定期点検及び修理等のメンテナンスを行った。 	令和4年2月28日開催委員会において承認	
自己 評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検評価を基に動物実験環境の整備・施設衛生管理に努めた。 ・2021年3月にある飼育室で黄色ブドウ球菌汚染あったが、年度にわたリクリーンアップし、定期的にモニタリングを行った。 	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> i 自己点検評価を基に適正な動物実験環境の整備および記録管理に進める。 ii 施設の飼育環境の改善と感染事故対策による管理体制強化 iii 施設利用の指導徹底 新型コロナウイルス感染症の流行下でも、新規及び既存の利用者への指導や教育に力を入れて行く。 	

令和3年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 RI管理小委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 アイソトープ実験施設長 谷川 昇

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会による点検・評価
目標・計画	<p>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> i 施設利用促進 小動物へのRI投与による治療実験のために飼育室の利用が増加傾向にあり、飼育室の利用環境を整備し、利用者の研究の推進に貢献する。 ii 施設管理体制の強化 飼育室では糞尿等によるRI汚染が発生しやすい状況である。汚染の防止措置や汚染検査を確実に実施する。（数値目標：法令規制値を超えるRI汚染を0にする） <p>②事業計画の実行課題 施設の利用促進及び施設管理体制の強化を図る。</p> <p>③自己点検評価報告書の問題点 なし</p>	令和3年9月24日開催委員会において承認
中間報告	<p>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> i 施設利用促進 <ul style="list-style-type: none"> ● 飼育室の利用増加に伴い、α線を放出する放射性同位元素(^{221}At)の1日使用数量が増える可能性が高い。変更許可申請を原子力規制委員会へ提出するための業務委託費用を次年度の予算に要求した。 ● 今年度中にα線核種など揮発性の高い放射性同位元素を安全に取り扱うための安全キャビネットの更新が了承され、年度内に納品される状況となった。 ii 施設管理体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ● 現在までにRI汚染事故は0件である。放射性同位元素が投与された動物廃棄に必須である動物乾燥機の購入費用を次年度の予算に計上した。 <p>②事業計画の実行課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 利用者のニーズに柔軟に応える体制を構築し、特にガンマセルは利用者が増加している。 ● 動物用麻酔装置の保守、SPECT/CTの定量性の担保などを実施した事もあり分子イメージングエリアの利用者も増加傾向にある。 <p>③自己点検評価報告書の問題点 なし</p>	令和4年1月31日開催委員会において承認
最終報告	<p>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> i 施設利用促進 <ul style="list-style-type: none"> ● 飼育室の利用増加に伴い、α線を放出する放射性同位元素(^{221}At)の1日使用数量が増える可能性が高い。変更許可申請を原子力規制委員会へ提出するための業務委託費用を次年度の予算に要求したが、次年度予算については未定である。 ● 今年度中にα線核種など揮発性の高い放射性同位元素を安全に取り扱うための安全キャビネットの更新が了承され、3/5(土)～3/10(木)にかけて設置工事を行う。 ii 施設管理体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ● 現在までにRI汚染事故は0件である。放射性同位元素が投与された動物廃棄に必須である動物乾燥機の購入費用を次年度の予算に計上したが、次年度予算については未定である。 <p>②事業計画の実行課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 利用者が増加しているガンマセルの夜間及び休日の鍵の貸し出しについて、ICカード式の金庫を利用した新規運用方法により利用者及び管理者の負担を減らす体制を整えた。新規運用方法は原子力規制委員会の了承も得ており、法令遵守も徹底した。利用者のニーズに柔軟に応える体制の構築が推進された。 ● SPECT/CTは装置の真空度回復作業を実施することで(2022/2/17～2022/2/18に予定)CTの画質の劣化を防ぎ、SPECT/CTにて取得される研究データの信頼性を高めた。 <p>③自己点検評価報告書の問題点 なし</p>	令和4年2月28日開催委員会において承認

<p>自己 評価</p>	<p>成果</p> <p>1. アイソトープ実験施設の環境整備 故障している大型装置の廃棄によりデッドスペースをなくし、「安全キャビネットの更新」、「RI 専用動物乾燥機の予算計上」及び放射線監視システム(排水、排気及びガンマセルの監視カメラ)の保守と修理などを通じて、研究者の安全確保、適切な予算運営及び施設管理体制の強化を実施したとともに法令をより遵守する環境を構築した。</p> <p>2. 法令遵守の徹底(原子力規制委員会の立入対応) 2021/11/19 に原子力規制委員会による防護セキュリティに関する立入検査を受けた。指摘事項が1項目、改善要望が2項目であった。全ての項目について既に対策を講じ、その内容を原子力規制委員会へ報告をした。その結果、より法令が遵守された研究環境となった。</p> <p>3. アイソトープ実験施設の支援体制の強化 SPECT/CT、ガンマカウンタ及び液体シンチレーションカウンタなどの放射線を計測して、放射能を定量する機器間のクロスキャリブレーションを実施した。クロスキャリブレーションを実施することで放射線計測器間の測定値のズレを補正することができ、放射線を利用した研究データの信頼性が担保された。</p>	
<p>課題</p>	<p>1. 施設利用促進 アイソトープ実験施設を利用するにあたり利用申請や教育訓練の手続きがわかりにくいという意見を聞いている。原因の1つは学内ホームページに掲載されているアイソトープ実験施設のホームページが見にくいのではと考えている。まずはアイソトープ実験施設を広告するためのホームページの整備が急務と考える。</p> <p>2. 利用講座の増加 施設利用促進させるために現在利用している研究者以外にも利用してもらえるようにする。特に脳や心臓についてはこれまでアイソトープ実験施設での研究実績がない。ホームページの整備を進める中で小動物用 SPECT/CT 装置に関する研究を紹介する事も必要である。</p> <p>3. 機器更新 関西医科大学のアイソトープ実験施設はα線放出核種を利用した動物飼育実験が可能な日本でも数少ない施設である。アイソトープ協会のホームページに「全国の RI 施設一覧」という「実験希望者と RI 施設がつながるきっかけとして」というページに関西医科大学アイソトープ実験施設を記載することを考えている。記載頂いた際には外部からの研究者が利用する可能性もあり、老朽化した機器及び施設内機器の保守点検をより強化していく必要がある。</p>	

令和3年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 研究部（医）

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 研究部長 奥田 耕市

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会による点検・評価
目標・計画	<p>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度で終了した私立大学研究ブランディング事業の取り纏め及び「難治性免疫・アレルギー疾患研究拠点形成事業」の推進。 URAと研究医長会議を軸に基礎医学と臨床医学の研究活動のマッチングを推し進め、科研費等の公的研究費獲得に結びつける。 基礎医学と臨床医学の枠を超え、学部内の共同研究を推進するための「KMU研究コンソーシアム」事業を推進する。 研究公正等、研究リスクマネジメント体制の整備・充実。 <p>②事業計画の実行課題 科研費等公的資金獲得</p> <p>③自己点検評価報告書の問題点 なし</p>	令和3年9月24日開催委員会において承認
中間報告	<ul style="list-style-type: none"> 「難治性免疫・アレルギー疾患研究拠点形成事業」として、これまでの事業の継続的な実施支援及び研究成果の公表のための支援（英文校正支援1件、論文掲載支援3件）を実施している。 令和4年度科研費申請については、新規223件、継続124件の申請を行った。 基礎医学と臨床医学の研究活動のマッチングを推進するため、9月15日の研究医長会議から毎回、会議終了後に基礎系の研究者を招き講演会を実施している。 URAを中心に、本学における科研費獲得における分析を行い、研究担当副学長に報告を行った。 「KMU研究コンソーシアム」事業を推進し、令和3年度には7件の課題を採択した。 研究公正等、研究リスクマネジメント体制の整備・充実を図るため、研究等不正防止委員会において、関係諸規程の改正等について検討を開始した。 	<p>令和4年1月31日開催委員会において承認</p> <p>・海外との共同研究の推進を ・国際化推進センターにおける国際研究部門としての役割を検討 ⇒ 以上の内容について、令和3年度に実施した内容があれば、最終報告に織り込んでください。なければ、令和4年度の計画に明記してください。</p>
最終報告	<ul style="list-style-type: none"> 「難治性免疫・アレルギー疾患研究拠点形成事業」として、これまでの事業の継続的な実施支援及び研究成果の公表のための支援（英文校正4支援件、論文掲載支援4件）を実施した。 令和4年度科研費申請については、新規223件、継続124件の申請を行った。 基礎医学と臨床医学の研究活動のマッチングを推進するため、9月15日の研究医長会議から毎回、会議終了後に基礎系の研究者を招き以下のとおり講演会を実施した。 9/15 がん生物学部門 坂本毅治 学長特命教授「がん生物学部門が目指す炎症・がん微小環境の制御機構解明の基礎研究と創薬研究」 10/20 生体情報部門 松田達志 准教授「Arf経路を介した免疫制御の可能性」 11/17 iPS・幹細胞再生医学講座 服部文幸 研究教授「イノベーション再生医学は何をする人ぞ」 神経機能部門 小早川令子 教授「感覚創薬技術による敗血症、ARDS、虚血再灌流障害治療薬の開発」 12/15 分子遺伝学部門 上岡裕治 講師「イメージング 基礎研究から臨床応用への可能性」 病理学講座 大江知里 講師「病理検体を用いた研究の展望」 2/16 教育研究企画室 廣瀬まゆみ URA「ハゲタカジャーナルに騙されないために」 URAを中心に、本学における科研費獲得における分析を行い、研究担当副学長に報告を行った。 「KMU研究コンソーシアム」事業を推進し、令和3年度には7件の課題を採択した。 研究公正等、研究リスクマネジメント体制の整備・充実を図るため、研究等不正防止委員会において、関係諸規程の改正等について検討した。（今年度内に改正等実施予定） 	令和4年2月28日開催委員会において承認

自己 評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和3年度科研費については、182件（新規62件、継続120件）、総額329,940千円（直接経費：253,800千円、間接経費：76,140千円）の採択結果であった。 ● 令和4年度申請については、最終報告のとおりである。 ● 研究公正等、リスクマネジメントについては、公的研究費の管理・監査に関する規程及び体制整備並びに研究公正等相談窓口及び相談員の設置に関する規程整備について、研究等不正防止委員会において検討し、年度内に施行予定である。 ● 研究費不正調査委員会（令和2年4月～令和3年7月）において、調査を終え、調査結果の最終報告書を資金配分機関に提出した。 	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体として、科研費については採択件数、採択額共に良好であるが、科研費種別の若手研究（博士の学位取得後8年以内）の申請者及び採択件数が少なく、応募資格者の約半数しか申請しない状況である。そのことから、今後の本学における研究力の継続的な強化を勧案すると、如何に若手の研究力の向上を図るか、研究者マインドの醸成を図るかが課題である。 	

令和3年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 看護学部 研究

中間責任者②（学部長）氏名 片田範子

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
目標・ 計画	<p>① 独自の課題（目標チャレンジ学部目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 科研費等公的資金獲得レベルの維持推進：令和2年度の学部内申請件数、採択率を上回ることを目指し、各領域申請件数95%以上、新規・継続採択率50%以上を目指す。 ・ 競争資金として外部の公募研究費等についても新規獲得に向けて情報の発信を行う。 ・ 既に厚生労働などからの公的な助成金や企業等からの助成金を受けている研究プロジェクトの継続や発展等を支援する。 ・ FDの一環として研究の推進ならびに研究費獲得セミナーを計画・実施する <p>② 事業計画の実行課題 なし</p> <p>③ 自己点検評価報告書の問題点 なし</p>	<p>令和3年9月24日開催委員会において承認</p>
中間 報告	<p>④ 独自の課題（目標チャレンジ学部目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 科研費等公的資金獲得レベルの維持推進：令和3年度の学部内申請件数48件（前年43件）であり、採択率も新規・継続あわせ採択率77.1%となった。 ・ 完成年度となる令和4年4月まで文科省等の補助金申請から除外されているが、令和4年度私立学校施設整備費補助金・私立大学等研究施設設備整備費補助金等で「教育装置」の予告申請をしている。 ・ 看護学部FD委員会の主催により、研究の推進ならびに研究費獲得セミナーを実施している。 	<p>令和4年1月31日開催委員会において承認</p> <p>・ 海外との共同研究を推進 ⇒ 令和3年度に実施した内容があれば、最終報告に織り込んでください。なければ、令和4年度の計画に明記してください。</p>
最終 報告	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度の申請件数が確定し、本学全体では新規247件、継続168件、合計415件（うち220件程度採択見込）である。看護学部は新規10件、継続34件、合計44件（うち37件程度採択見込）である。採択結果は3月教授会にて報告予定である。 ・ 令和4年度私立学校施設整備費補助金・私立大学等研究施設設備整備費補助金等で「教育装置」の予告申請をしている。 ・ FDにおいて、教育研究企画室 URA 廣瀬氏を講師に招き「外部資金獲得」に関する戦略的なセミナーを開催した。 	<p>令和4年2月28日開催委員会において承認</p>

自己 評価	成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の研究費獲得状況はこの3年間継続して高い水準を保持してきた。コロナ禍において、研究の実施が難しい時期もあったが、順調に進んでいる。 ・次年度に向けての、私立学校整備補助金等を活用した教育・研究装置の獲得をめざす等積極的な外部資金の得を目指している。 ・研究費獲得のためのプログラムを実施し、充実した研究推進を継続している。 	
	課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の研究費獲得状況の維持 ・教員研究推進のための機器整備 ・新人教員への研究計画書作成や外部からの補助金獲得のセミナーの継続 ・国際協力や共同組織の形成に向けた、交流は始めたもの、コロナ禍において、渡航制限となり、行動研究実施には至っていないことから、国際研究の補助金獲得の進め方などを全教員に行い、積極的な共同研究を促す ・国際交流センターなどを通して、共同研究が可能な海外大学の教育との交流を進める。 	

令和3年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 研究部（リハ）

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 研究部長 奥田耕市（リハ生島事務長）

		委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
目標・計画		<p>（文字数 700 字以内：要望。①独自の課題（目標チャレンジ部目標）、②事業計画の実行課題、③自己点検評価報告書の問題点、に分けて記載ください。）</p> <p>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員として研究活動を推進させるため、全教員が科研費を申請することを目標に、教授職が中心となり、科研費の申請の支援を行う。 ・ 外部資金獲得のため、公募・募集等について告知することにより、応募の機会を周知すると同時に外部資金を獲得することの利点等を理解させる。 ・ 新任教員等に対してはFD活動等を通じて研究活動の啓発活動に努める。 <p>②事業計画の実行課題 なし</p> <p>③自己点検評価報告書の問題点 なし</p>	令和3年9月24日開催委員会において承認
中間報告		<p>①独自の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教授会で全学的な科研費の申請状況を報告するとともに、教授会参加者から学科会議等を通じて、全教員に科研費の申請を促している。 ・ 研究部より財団・AMED・JST等各種募集について全学メールにて周知するとともに、応募可能な学部資金の募集についてポスター等をリハビリテーション学部棟6階掲示板に掲示し、応募の機会を周知している。 ・ リハビリテーション学部教員に対して、FD研修会（7月外部資金獲得、2月ハラスメント研修）を実施した。またFD委員会において 	令和4年1月31日開催委員会において承認
最終報告		<ul style="list-style-type: none"> ・ 教授会で全学的な科研費の申請状況を報告するとともに、教授会参加者から学科会議等を通じて、全教員に科研費の申請を促した。本年度の科研費は14件申請（新規4件、継続10件）であった。 ・ 研究部より財団・AMED・JST等各種募集について全学メールにて周知するとともに、応募可能な学部資金の募集についてポスター等をリハビリテーション学部棟6階掲示板に掲示し、応募の機会を周知している。 ・ リハビリテーション学部教員に対して、FD研修会を6回を実施し、外部資金の獲得、特許申請、理学療法学科・作業療法学科専任教員要件等について説明を行った。またFD活動の一環として、次年度以降にリハビリテーション学部教員の研究紹介を行うことを検討した。 	令和4年2月28日開催委員会において承認
自己評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科研費については、教員15人に対し14件の申請であり、申請率は93%であり、競争的資金獲得への意識は高いといえる。科研費以外の外部資金については、研究部からのメール提供に加え、リハビリテーション学部へ届いたものは6階掲示板に貼付しており、教員への外部資金について、申請を促している。また外部資金の獲得を始め、特許申請や理学療法学科・作業療法学科の専任教員の資質向上等幅広くFD活動を実施した。 	
	課題	<p>教員個人の研究については、それぞれの専門領域において適切な競争的資金の獲得を目指しているが、他の教員の研究分野や内容について不明な点が多く、共同研究の実施には至らぬ状況である。次年度以降は、リハビリテーション学部教員の研究分野や内容を互いに発表する取り組みをした上で、共同研究の実施を検討したい。</p>	

令和3年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 図書館管理委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 附属図書館長 赤根 敦

		委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
目標・ 計画		<p>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 医学部、看護学部各々のカリキュラム・ポリシーに沿った資料を収集・整備する。 ● リハビリテーション学部開設に伴う牧野分室の資料整備に取り組む。 ● 学術情報へのアクセスを確保し、電子コンテンツ（ジャーナル・ブック・データベース）の有効利用を促進する。 ● 医学会と共同で、業績データベースを管理し、教員評価に協力する。また、学術祭の開催を支援する。 ● 医学会と連携して、学術機関リポジトリの新プラットフォームへのスムーズな移行に向けて支援する。 <p>②事業計画の実行課題</p> <p>牧野分室の資料整備、電子コンテンツの有効利用、機関リポジトリの新プラットフォームへのスムーズな移行。</p> <p>③自己点検評価報告書の問題点</p> <p>書庫の狭隘化対策としてのバックファイルの整備、電子ブックの拡充</p>	令和3年9月24日開催委員会において承認
中間 報告		<ul style="list-style-type: none"> ● 教育要項掲載図書改版分の購入、図書委員による学生用図書選書を実施し、蔵書の一層の充実を図った。 ● 2022年版電子ジャーナルの購読タイトルについて、アンケート結果に基づき図書運営委員会において検討した。検討結果を基に管理委員会において、更なる電子ジャーナルの充実に向けての方策、今後のジャーナル選定方法の見直しが審議された。電子コンテンツの有効利用促進のため、情報検索に関する講習会を開催した。 ● 第5回学術祭のTeams配信をはじめ開催の支援を行った。 ● 学術機関リポジトリ新プラットフォームへの移行が提供元事情により延期となった。移行スケジュールに係る情報を取得し、学内関連部署と情報共有に努めた。 	令和4年1月31日開催委員会において承認
最終 報告		<ul style="list-style-type: none"> ● 教育要項掲載図書の購入に加えて、講座、教室、部門、領域、学科の図書委員に対し学生用図書の推薦依頼を年2回以上行い、蔵書の充実を図った。 ● 論文1ダウンロード当たりの単価、利用回数等を参考に図書運営委員会において2022年版電子ジャーナルの購読タイトルを検討した。検討結果を基に管理委員会において、購読タイトルが決定した。また、更なる電子ジャーナルの充実に向けての方策、今後のジャーナル選定方法の見直しが審議された。 ● 牧野分室の資料整備を計画どおり実行した。 ● 電子コンテンツの有効利用促進のため、情報検索に関する講習会を7回開催した。 ● 業績データの更新、データ抽出に協力し、第5回学術祭のTeams配信をはじめ開催の支援を行った。 <p>学術機関リポジトリ新プラットフォームへの移行が提供元事情により延期となった。移行スケジュールに係る情報を取得し、学内関連部署と情報共有に努めた。</p>	令和4年2月28日開催委員会において承認
自己 評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和3年度に開設した牧野分室において、図書運営委員会（図書委員会）と協力連携して、購入希望資料に係るアンケートを学生、教員に実施した。教育要項掲載図書、教員からの推薦図書に加えて、アンケート結果を基に学生用図書の充実を図った。 ● 教育、研究の国際化推進を支えるため、管理委員会において電子ジャーナルの充実に向けての方策、選定方法の見直しが審議された。 ● 看護学部の看護研究法Ⅱ、リハビリテーション学部の基礎ゼミ（文献検索演習）それぞれの講義において、文献検索の支援を行った。 	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 電子ジャーナル選定のための購入希望調査形式と指標を検討する。 ● 書架狭隘化対策として、利用状況を念頭に資料の整理、電子版の活用を進める。 	

令和3年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 外部資金獲得戦略会議

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 木梨 達雄

		委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
目標・計画	<p>① 独自の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の動向等を見据えた外部資金獲得に関する方針の検討、策定を行う。 ・URAを活用した科研費採択増加等の研究支援強化に係る企画立案を行う。 ・文部科学省の研究装置（1/2助成）・設備（2/3助成）等施設整備補助金などの私学助成制度等に関する補助金獲得に向けた企画立案を行う。 <p>② 事業計画の実行課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育研究企画室及び学内の各関係部署と相互に連携し私立大学等改革総合支援事業の採択をはじめとする私立大学等経常費補助金等の獲得・増大に向けた企画立案を行う。 ・産学知財統括室と連携し公的機関を軸とした外部資金獲得に向けた企画立案を行う。 <p>③ 自己点検評価報告書の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費等競争的資金に係る企画立案、文部科学省の施設整備補助金や私立大学等経常費補助金等の私学助成制度における補助金の獲得・増大に向けた企画立案などの取り組みについて、今後も継続的に実施する。 	<p>令和3年9月24日開催委員会において承認</p>	
中間報告	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度教育研究経常費に係る補助金過大交付分の返還発生を受け、今後の教研費執行状況の把握・執行推進体制に関する施策の検討を行った。 ・令和3年度研究設備（2/3助成）補助金の申請内容について審議し、会議にて承認された事業の申請を実施した。 ・令和3～5年度私立学校施設整備費補助金・私立大学等研究施設設備費補助金等申請に関して、公募実施状況を鑑み申請予定の繰り下げ等対応について審議し計画調書を作成した。 ・私立大学等改革総合支援事業に関して申請するタイプごとの獲得点数増加策の検討を行った。 ・今後のAMED等の外部資金獲得に向けて、新型コロナウイルス感染症関連の課題募集を見越し、臨床検査・検体採取・解析等推進体制の整備について企画・検討した。 	<p>令和4年1月31日開催委員会において承認</p>	
最終報告	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の教研費執行状況の把握・検討体制の整備を検討し、また令和3年度教育研究経常費の返還金発生を回避するための施策を検討した。 ・令和3年度研究設備（2/3助成）補助金事業について審議・承認のうえ1件の申請を実施した。 ・令和3～5年度私立学校施設整備費補助金・私立大学等研究施設設備費補助金等申請に関して、申請予定の繰り下げ等対応について審議し作成された計画調書を承認した。 ・私立大学等改革総合支援事業に関して申請するタイプごとの獲得点数増加策を検討し、各担当部門において点数増加に向けた体制整備および取組みを実施した。 ・AMED等の新型コロナウイルス感染症関連の課題募集を見越し、臨床検査・検体採取・解析等推進体制の整備について企画・検討したが、今年度においては外部資金獲得には至っていない。 ・ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業の公募について申請を行った。 	<p>令和4年2月28日開催委員会において承認</p>	
自己評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・期中にて教研費の執行状況および執行見込みを把握し年度内の教研費執行推進を検討する体制を構築した。 ・令和3年度経常費補助金の教育研究経常費について、間接経費の執行方法見直し等により、執行額が基準額を上回り返還金発生を回避できる見込みである。なお令和3年度の実績報告は令和4年6月頃に実施する予定である。 ・令和3年度研究設備（2/3助成）補助金事業の公募について1件の申請を行い選定された。 ・令和3～5年度私立学校施設整備費補助金・私立大学等研究施設設備費補助金等申請に関する計画調書を策定し、今後の各事業公募に対する準備を進めた。 ・私立大学等改革総合支援事業に関して「タイプ1（前年度70点→今年度79点）」、「タイプ4（前年度38点→今年度46点）」と各タイプとも前年度を上回る点数で申請を行った。選定可否の結果は年度末に通知される予定である。 	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・全学的な見地に立った機器・装置等リプレースの検討等による更なる教研費の執行を促す必要がある。 	

令和3年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 産学知財推進委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 薬師寺祐介

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
目標・計画	<p>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <p>(1)外部資金獲得向上に向けた戦略的・計画的施策</p> <p>倫理委員会への申請時の研究計画書や動物実験計画書、さらには科研費終了テーマ等から、対象テーマを発掘し、論文投稿、特許出願と戦略的にリンクさせながら本学が代表となる外部資金獲得を狙う。特に日本医療研究開発機構（以下、AMED）に対しては、過去の募集時期から、今後の募集機を把握し、計画的に準備を進める。令和3年度採択3件を目標とする。</p> <p>一方、拠点大学AMED「橋渡し研究戦略的推進プログラム」については、全国10拠点の事前相談会や説明会の日程を順次把握し学内に情宣するとともに、対象テーマについては専属コンサルタントと共に内容強化を行い、着実に採択数を向上させる（5件以上）。</p> <p>(2)医療ニーズ・シーズに基づく戦略的社会実装の推進</p> <p>①医療ニーズについては、昨年と同様に、全学から医療ニーズの募集を行い、全国2600社以上の製販企業にそのリストおよび医療ニーズ発表会の開催通知を行う。オファーのあった医療ニーズについては、製販企業と面談し、必要に応じて秘密保持契約、共同研究契約を締結し、関西医大発の医療機器（雑品含む）の導出を目指す（医療ニーズ収集100件以上、製販企業との継続検討件数10件以上、上市案件2件以上を目標とする）。</p> <p>②医療シーズにおいては、研究対象テーマを、疾病領域とモダリティの観点から整理し、一方で製薬企業のWISH（求める医療ニーズ）をアンケート等で把握し、相互のマッチング確率の向上を狙う。さらに、この取り組みを医療機器分野にも展開する。</p> <p>③上記活動にリンクし、特許出願および権利化、権利放棄を戦略的に推進する。</p> <p>②事業計画の実行課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究シーズおよび医療ニーズの計画的抽出、専属コンサルタントによる内容精査・強化、AMEDをはじめとする外的資金手段の把握、社会実装のための企業とのマッチング手法および実践等の一連の産学連携活動のサイクルは確立できた。 ・課題は、このサイクルを継続させる体制づくり、社会実装によるより大きな成果導出および、組織対組織の大型契約、協定締結による成果の拡大、公的機関からの外部資金獲得拡大である。 <p>③自己点検評価報告書の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記サイクルをさらに質的、量的に拡充させ、本学の特徴ある社会貢献活動として定着させていくことが求められる。 	<p>令和3年9月24日開催委員会において承認</p>
中間報告	<p>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <p>(1)外部資金獲得向上に向けた戦略的・計画的施策</p> <p>倫理委員会への申請時の研究計画書や動物実験計画書、さらには科研費終了テーマ等から、対象テーマを着実に発掘している。日本医療研究開発機構（以下、AMED）に対しては、10件以上の申請を実施し、現在2件（片野先生、小早川先生）の採択を得ている。また、拠点大学AMED「橋渡し研究戦略的推進プログラム」については、全国10拠点の事前相談会や説明会の日程を順次把握し学内に情宣するとともに、申請書の事前チェック等を行い、現在、下記が申請済である（一部予定含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道大学シーズA 3件（野田先生、松岡先生、植田先生）、 ・東北大学Pre F 1件（神田先生）、同シーズA 1件（齊藤先生）、 ・九州大学Pre F 1件（林先生）、 ・京都大学シーズA 6件（松浦先生、白水先生、林先生、薬師寺先生、埜中先生、植田先生）、同pre C 1件（北先生：1次書類審査通過）、同シーズA 2年目3件（石田先生、吉田崇先生、赤間先生）、 ・大阪大学シーズA 2件（松田先生、中竹先生）、同pre F 1件（中村先生：1次書類審査通過） ・岡山大学シーズA 2件（保坂先生、植田先生） 以上、21件申請中。 	<p>令和4年1月31日開催委員会において承認</p> <p>・国際化推進センターにおける産学知財、国際特許等の推進を図る ⇒ 令和4年度の計画に明記してください。 令和3年度に実施した内容があれば、最終報告に織り込んでください。</p>

	<p>さらに、小児科学講座の石崎優子先生を実行者とする「起立性調節障害児のための治療法および治療機器の開発」をテーマにクラウドファンディングを行い（7月7日～8月31日）、1024万円の寄付を頂いた。現在プロジェクト（企業6社でのコンソーシアムとして）の立上げ中である。</p> <p><u>（2）医療ニーズ・シーズに基づく戦略的社会実装の推進</u></p> <p>①医療ニーズについては、昨年と同様に、全学から医療ニーズの募集を行い72件が集まった。そのリストを全国2600社以上の製販企業に発信するとともに、医療ニーズ発表会を開催し（10月21日）、130名の参加があった。面談オファーは72件があり、現在順次、医療従事者と企業との面談を実施している。</p> <p>②（創薬系）医療シーズにおいては、研究対象テーマを、疾病領域とモダリティの観点からマトリックス上で整理し、一方で製薬企業のWISH（求める医療ニーズ）はアンケートで把握し、マッチング会を行う準備を今年も進めている。既にアンケートの回収を終え、発表をお願いする企業様も決定している。日程は3月23日で決定した。</p> <p>一方で、（医療機器系）医療シーズに対する取組みも同様に検討しており、マトリックスの作成方法等の検討は終了するとともに、医機連傘下の主要4団体にお声がけをしている。2022年秋ごろに開催を予定している。</p> <p>③上記活動にリンクし、特許出願は、今年度3件完了している。うち1件は戦略的に分割出願を行った。</p>	
<p>最終報告</p>	<p><u>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</u></p> <p><u>（1）外部資金獲得向上に向けた戦略的・計画的施策</u></p> <p>倫理委員会への申請時の研究計画書や動物実験計画書、さらには科研費終了テーマ等から、対象テーマを発掘した。2022年2月18日現在、AMED本体は、2021年度18件の申請を実施し、内1件（小早川先生）採択、1件（石崎先生）は1次審査を通過しヒアリング待ち。5件は採否待ちである。拠点大学AMED橋渡し研究戦略的推進プログラムは、全国10拠点の事前相談会や説明会の日程を順次把握し学内に情宣、申請書の事前チェック等を行い、2022年2月18日現在、①北海道大学は、シーズA3件を申請し1件が採択（松岡先生）された。②東北大学は、PreF1件申請したが不採択、同シーズAは6件申請し採択待ちである。③九州大学は、PreF1件、シーズA1件を申請したがいずれも不採択となった、京都大学は、新規シーズA7件、継続シーズA2件を申請し、継続シーズA1件（赤間先生）が採択された。同preCも1件（北先生：2次書類審査通過）申請し現在最終採否待ちである。大阪大学は、シーズAを6件申請し、1件採択（白水先生）された（他の5件は確認中）。同preFを1件申請し1次通過したが最終不採択であった。同シーズBとFの併願1件申請（小早川先生）し現在採択待ちである。岡山大学は、シーズA2件を申請したが、いずれも不採択であった。以上、シーズAを27件申請し、採択確定3件、採否待ち11件、不採択13件、preFは3件申請したがいずれも不採択であった。シーズB、C、Fは、2件申請しいずれも審査中である。</p> <p>小児科学講座の石崎優子先生を実行者とする「起立性調節障害児のための治療法および治療機器の開発」をテーマにクラウドファンディングを行い（7月7日～8月31日）、1024万円の寄付を頂いた。現在プロジェクト（企業6社でのコンソーシアムとして）の立上げ、プロトタイプ製作中である。</p> <p><u>（2）医療ニーズ・シーズに基づく戦略的社会実装の推進</u></p> <p>①（医療機器系）医療ニーズについては、昨年と同様に、全学から医療ニーズの募集を行い72件が集まった。そのリストを全国2600社以上の製販企業に発信するとともに、医療ニーズ発表会を開催し（10月21日）、130名の参加があった。面談オファーは72件（内37件はその後応答なし、もしくはメールのみ）があり、2022年2月18日現在、医療従事者と企業との面談を35件中34件実施した。</p> <p>②（創薬系）医療シーズにおいては、研究対象テーマを、疾病領域とモダリティの観点からマトリックス上で整理し、一方で製薬企業のWISH（求める医療ニーズ）はアンケートで把握し、マッチング会を行う準備を今年も進めている。2回目となる本マッチング会は、WISH発表企業5社、SEEDs発表5件で、3月23日に開催予定。本内容は、日本コンピュータ外科学会で発表を行った。</p> <p>一方で、（医療機器系）医療シーズに対する取組みも同様に検討しており、マトリックスの作成方法等の検討は終了し、医機連傘下20団体のうち主要4団体（①日本画像医療システム工業会（JIRA）、②電子情報技術産業協会（JEITA）、日本医療機器テクノロジー協会（MTJAPAN）、日本医療機器工業会（日医工））の各理事会の承認を得て、各社（対象750社）にアンケートを打診した。現在募集中で、3月15日に集約し、マトリックスを作成御、8月頃にマッチング会を開催する予定で進めている。</p> <p>③社会実装のためのマッチング会への参画も積極的に行なった。具体的には、バイオジャパン（4先生参加：15件の企業との面談実施）、大阪商工会議所主催MDF（5月：石崎先生（5社からオファーがあり、コンソーシアム設立）、12月：野田先生（6社からオファーがあり、現在製販企業大手と秘密保持契約締結検討中）、1月：神田先生（2社からオファー）の3先生参加）、DSANJ（野田先生（1社からオファー）、石田先生（1社からオファー）、林先生（3社からオファー）、寿野先生（4社からオファー）の4先生参加）、JST新技術説明会（服部先生（2社からオファー））に参画し、多くの企業から面談オファーがあった。DSANJは、結果待ちであるが、石崎先生、野田先生のテーマについては成果が出てきている。</p> <p>④上記活動にリンクし、特許出願は、2022年2月18日現在、今年度10件特許出願、1件譲渡受、分割出願1件を行った。国際特許出願は4件（林先生、石田先生、北先生、人見先生）である。また、発明者薫先生の「肺がんで見出された新規融合遺伝子」について実施許諾の契約交渉を行った。1社は許諾条件（イニシャル500万円、ランニング1症例1000円）ほぼ確定し、現在契約書案の検討を先方が行っている。もう1社は先方の検討中である。更に、社会連携講座として「がん多細胞コミュニケーション学」（薫先生）を小野薬品と締結した。</p> <p>⑤さらに、本学の社会実装に対するマインドを醸成するため、学部1回生（22名）に対する15コマのイノベーションセミナーを、業界著名人を招聘し実施した。</p>	<p>令和4年2月28日開催委員会において承認</p>

自己 評価	成果	AMED 本体：AMED-CREST 1 件採択（小早川先生：初年度 3500 万円、以降 5 年各 7000 万円）、AMED 成育疾患克服等総合研究事業（石崎先生）は一次審査通過し、ヒアリング待ち。他 5 件は審査中。AMED 橋渡し：シーズ A は採択確定 3 件、採否待ち 1 1 件。シーズ B、C、F は、2 件申請しいずれも審査中である。小児科学講座の石崎優子先生を実行者とする「起立性調節障害児のための治療法および治療機器の開発」をテーマにクラウドファンディングを実施し（7 月 7 日～8 月 31 日）、1024 万円の寄付を得た。プロジェクト（企業 6 社でのコンソーシアムとして）の立上げ完了。野田先生（病理学）の「ネクロトーシス関連タンパク質 X を用いた新規口腔腫瘍体外診断薬の開発」は、大手製販企業と秘密保持契約段階に進展。特許出願は、2022 年 2 月 18 日現在、今年度 1 0 件特許出願、1 件譲渡受、分割出願 1 件完了。国際特許出願は 4 件（林先生、石田先生、北先生、人見先生）完了。発明者 葛先生の「肺がんで見出された新規融合遺伝子」について実施許諾の契約交渉中。1 社は許諾条件（イニシャル 500 万円、ランニング 1 症例 1000 円）ほぼ確定。更に、社会連携講座として「がん多細胞コミュニケーション学」（葛先生）（3000 万円×3 年）を小野薬品と締結した。また、医学部学部 1 回生に 15 コマの社会実装に関するノベーションセミナーを実施することにより、社会実装・知財・薬事等に対する医師としての基本知識および、姿勢と心構えが醸成できた。	
	課題	医療ニーズ、シーズに基づく外的資金獲得、社会実装を質的、量的により拡充させ、かつ継続的な取組みとするために、産学知財の人員増強および体制づくりが急務である。	

令和3年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 臨床研究支援センター運営委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 長沼 誠（センター長、委員長）

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
目標・ 計画	<p>①独自の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床研究に係る倫理教育の定期的な実施 臨床研究力の強化・向上につながるワークショップの実施 生物統計、プロトコール作成支援等に係る相談会の実施 <p>②事業計画の実行課題</p> <ul style="list-style-type: none"> CRC 支援を中心とする臨床研究支援体制の強化（1名以上のCRC増員） <p>③自己点検評価報告書の問題点</p> <p>なし</p>	令和3年9月24日開催委員会において承認
中間 報告	<p>① 独自の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度の臨床研究に係る倫理教育として、令和3年7月28日（水）に第13回臨床研究等倫理講習会を実施した。令和4年1月13日（木）に第14回臨床研究等倫理講習会を実施する予定である。 令和3年度のワークショップは、看護研究シリーズを令和3年8月25日（水）に実施した。同年12月20日にも実施する予定である。 令和3年度の相談会は、52件（令和3年11月末まで）行った。 <p>②事業計画の実行課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年2月からCRCを1名増員する予定である。 	令和4年1月31日開催委員会において承認
最終 報告	<p>① 独自の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度の臨床研究に係る倫理教育として、令和3年7月28日（水）に第13回臨床研究等倫理講習会を、令和4年1月13日（木）に第14回臨床研究等倫理講習会を実施した。 令和3年度のワークショップは、看護研究シリーズを令和3年8月25日（水）、12月20日（月）に実施した。 令和3年度の相談会は、66件（令和4年1月末まで）行った。 <p>② 事業計画の実行課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年2月1日にCRCを1名増員した。 	令和4年2月28日開催委員会において承認
自己 評価	<p>① 独自の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床研究等倫理講習会については、例年通り年2回実施した。 相談会は、令和2年度58件と比べ、令和4年1月末時点でも8件増66件となった。 <p>② 事業計画の実行課題</p> <ul style="list-style-type: none"> CRCの増員により、新規の臨床研究支援を受け入れることが可能となった。 	

	<p>課題</p> <p>① 独自の課題</p> <ul style="list-style-type: none">・ワークショップの内容の拡充等が必要である。・臨床研究に係る相談件数を増やすための継続的な取り組みが必要である。 <p>② 事業計画の実行課題</p> <ul style="list-style-type: none">・臨床研究支援の経費算定表の作成とサポート体制の更なる充実が必要である。	
--	---	--

令和3年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 倫理審査センター運営委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 薦 幸治（センター長、委員長）

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
目標・計画	<p>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に対応した倫理審査委員会規程の改定及び審査体制の見直し ・学外からの審査依頼に対応できる体制の構築 ・各種倫理審査をより円滑に進めるための審査手順の見直し ・業務効率向上のための倫理審査申請システムの機能追加の検討 ・定期報告書提出率向上のための具体的な取組みの検討 ・臨床研究法に対応した認定臨床研究審査委員会の設置 <p>②事業計画の実行課題</p> <p>なし</p> <p>③自己点検評価報告書の問題点</p> <p>なし</p>	令和3年9月24日開催委員会において承認
中間報告	<p>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倫理審査センター規程、医学倫理審査委員会規程、附属病院研究倫理審査委員会規程の改定を行った。（令和3年6月30日施行） また、香里病院倫理審査委員会規程を現在改訂中である。（委員会承認済） ・倫理審査申請システムの機能追加として、指針改定に伴う変更及びびくずは病院倫理審査委員会の追加を行った。 ・定期報告書未提出者に対し、定期的に督促を実施。11月30日現在、督促数に対し約50%の提出あり。 ・指針改定に伴う各種手順書の制定および改定を行った。（令和3年6月30日施行） ・他大学等の臨床研究審査委員会の調査を行った。平成30年12月末までに設置された84委員会が令和3年に3年間の期限を迎えたが、臨床研究法の要件（年11回審査を行う委員会開催）を満たせた委員会は42委員会、満たせなかった42委員会のうち、35委員会は廃止後特例的に再申請、7委員会は廃止したことがわかった。 	令和4年1月31日開催委員会において承認
最終報告	<p>① 独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倫理審査センター規程、医学倫理審査委員会規程、附属病院研究倫理審査委員会規程及び香里病院倫理審査委員会規程の改定を行った。（令和3年6月30日施行、香里病院のみ令和3年11月1日施行） ・倫理審査申請システムの機能追加として、指針改定に伴う変更及びびくずは病院倫理審査委員会の追加を行った。 ・定期報告書未提出者に対し、定期的に督促を実施。また、倫理審査申請システムより、1年に1回提出を促す旨の機能追加を依頼中である。2月9日現在、督促数に対し約57%の提出あり。 ・指針改定に伴う各種手順書の制定および改定を行った（令和3年6月30日施行）。引き続き、令和2年・3年改正個人情報保護法を踏まえた令和4年4月1日施行の指針改定に合わせた各種手順書の改定、ひな形の改定、および倫理審査新申請システムの機能追加等の検討を行う。 	令和4年2月28日開催委員会において承認

自己 評価	成果	<p>① 独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を対象とする生命科学・医学系指針に関する倫理指針（令和3年6月30日施行）に対応した規程及び各種手順書の制定および改定することができた。 ・くずは病院倫理審査委員会が設置されたことに伴う対応を行った。 	
	課題	<p>① 独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期報告書未提出者に対する対策の検討が必要である。 ・臨床研究審査委員会の設置については、更新要件である「審査意見業務を行う開催が年11回以上必要」を満たせる見込みがないため、保留している。 	

令和3年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 iPS・幹細胞研究支援センター運営委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 iPS・幹細胞研究支援センター長 六車 恵子

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
目標・計画	<p>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <p>本学における、iPS細胞・ES細胞などヒト多能性幹細胞を用いた研究水準の向上と医学応用の促進を目指し、iPS細胞の作成・培養・分化・保管並びに、ヒト多能性幹細胞研究の推進・支援・人材育成を行う。</p> <p>(1) iPS細胞樹立支援 (2) 細胞品質管理、細胞保管 (3) 研究計画作成支援 (4) 初心者のための培養技術指導 (5) 幹細胞研究のための技術支援 (6) 難病克服のための創薬・病態研究基盤技術開発支援</p> <p>②事業計画の実行課題</p> <p>再生医療、ゲノム医療等研究推進。 施設の狭隘化による、研究推進に必要な解析機器、細胞保管容器の追加設置ができない状態の解消及び利活用の更なる推進、研究の加速化のためのセンターの拡充。</p> <p>③自己点検評価報告書の問題点</p> <p>なし</p>	令和3年9月24日開催委員会において承認
中間報告	<p>①独自の課題</p> <p>共同研究の相手方機関から大学院生を研究員として受入れ、項目(1)～(6)を実施した。 本学研究者に対し、公的研究費および学内研究助成金のための研究計画作成を指導し、申請を支援した。 難治性神経疾患の患者会において、ヒト多能性幹細胞研究を用いた医学応用の現状について講演した。</p> <p>②事業計画の実行課題</p> <p>再生医療に念頭に非臨床POC承認を目指したAMED事業を支援中である。</p>	令和4年1月31日開催委員会において承認
最終報告	<p>①独自の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 学外共同研究機関から大学院生を研究員として受入れ、項目(1)～(6)を実施した（2機関、計3名）。共同研究機関とは共同研究契約の下、試料・情報の授受を行った。公的研究費獲得実績は科研費基盤研究（A）1件（本学は分担機関）。学術論文として年度内に投稿予定（計3報）。 共同研究成果を知財として出願するため、本学産学連携知的財産統括室との打合せを実施した。 学内研究者に対し、公的研究費および学内研究助成金のための研究計画作成を指導し申請を支援した。採択実績は、学内研究助成は、KMUコンソーシアムが1件、D1が2件、D2が1件の計4件。 共同研究機関の協力の下、神経変性疾患患者4症例からiPS細胞を作製した。 神経変性疾患の患者会において、ヒト多能性幹細胞研究を用いた医学応用の現状について講演した。 民間企業（1件）への技術指導を開始した。 <p>②事業計画の実行課題</p> <p>再生医療を念頭に、非臨床POC承認を目指したAMED研究課題を代表研究機関として実施した。 施設の狭隘化による、研究推進に必要な解析機器、細胞保管容器の追加設置ができない状態の解消及び利活用の更なる推進、研究の加速化のためのセンターの拡充は、継続して実行すべき課題とする。</p>	令和4年2月28日開催委員会において承認

自己 評価	成 果	<p>独自の課題として掲げた、本学における研究水準の向上と医学応用の促進のため、当センターを活用した研究を積極的に推進し、研究者の要望に沿った研究支援、研究達成のための人材育成を実施できた。学外機関との複数の共同研究を通じ、本学研究者のリサーチマインドの向上に寄与した。学内外共同研究者との研究成果は学術論文としていずれも投稿準備中の段階にある（計5報）。うち2報は本学大学院生の学位論文として取りまとめを進めている。新たに作製した患者由来 iPS 細胞は、難治性疾患の病態解明に画期的な知見を与えるものであり、論文成果を通じ（投稿準備中）、治療法開発に寄与すると考える。</p> <p>事業計画として掲げた再生医療については、AMED 事業の研究支援ならびに共同研究機関施設の協力により、病態モデル動物への細胞移植の可能性を検討した。本研究成果も論文作成中であり、学位論文としての取りまとめを予定している。</p> <p>以上の成果より、当センターの掲げた目標・計画を十分に達成できたと評価できる。</p>	
	課 題	<p>施設の狭隘化による、研究推進に必要な解析機器、細胞保管容器の追加設置ができない状態の解消は進めることができなかった。学内外の利用研究者も増えており、それに伴い学術論文・学会発表の成果として現れ始めている。研究加速化のためのセンターの拡充は、継続して実行すべき課題と考える。</p>	

令和3年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 病態分子イメージングセンター運営委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 病態分子イメージングセンター長 中 邨 智 之

		委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
目標・ 計画		<p>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <p>本学における、基礎と臨床のトランスレーショナル研究発展のため、神経、がん、代謝の3研究部門と支援部門の研究体制を構築し、分子イメージングシステムを駆使して、患者と動物モデルの疾患の病態を分子から個体まで体系的に解明し、課題とする疾患の診断治療法の開発に結び付ける。</p> <p>(1) 神経部門は神経可塑性・非可塑性、神経変性疾患 (2) がん部門は組織・がん幹細胞の同定、発がん・転移機構 (3) 代謝部門は炎症、血管・組織の加齢変化、動脈硬化、糖尿病の病態解明 (4) 支援部門はプロジェクトの研究推進と若手研究者の人材育成の支援</p> <p>②事業計画の実行課題 なし</p> <p>③自己点検評価報告書の問題点 なし</p>	令和3年9月24日開催委員会において承認
中間 報告		10月に「2019年度・2020年度研究成果報告書」をまとめて公表した。神経部門に9講座、がん部門に9講座、代謝部門に12講座が参画して、多数の先端的なイメージング機器と生化学的解析機器等を活用して、研究を遂行中である。	令和4年1月31日開催委員会において承認
最終 報告		10月に「2019年度・2020年度研究成果報告書」をまとめて公表した。神経部門に9講座、がん部門に9講座、代謝部門に12講座が参画して、多数の先端的なイメージング機器と生化学的解析機器等を活用して、研究を遂行している。	令和4年2月28日開催委員会において承認
自己 評価	成果	現在研究が進行中であり、令和5年度に規程に基づき2か年の成果を取り纏め公表する予定である。	
	課題	機器の老朽化による故障が増えていること、センターとして機器更新用の予算がないことが課題である。	

令和3年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 臨床解剖教育研究センター運営委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 臨床解剖教育研究センター長 北田 容章

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
目標・計画	<p>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> ご遺体を用いた医師及び歯科医師の解剖学の再教育、医療技術の習得並びに臨床医学研究（以下「臨床医学教育研究」という。）を円滑かつ適正に実施する場を提供する。 センターは、本学における手術手技研修組織として、ご遺体を使用した手術手技研修の企画等に関する支援、実施時期の調整、ご遺体の準備と調整及び実施等を行い手術手技の向上並びに臨床医学研究の発展に寄与する。 センターは、関西医科大学遺体使用の臨床医学教育・研究専門委員会、本学白菊会並びにその他関係部署等と連携して、次に掲げる業務を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 臨床医学教育研究に係る遺体準備・処理業務及び遺体情報管理に関すること 臨床医学教育研究の自己評価に関すること 臨床医学教育研究の指導監督に関すること 臨床医学教育研究の統括に関すること 日本外科学会内設置 CST 推進委員会への報告等連絡調整に関すること その他センターの目的を達成するために必要な事項に関すること <p>②事業計画の実行課題 なし</p> <p>③自己点検評価報告書の問題点 なし</p>	令和3年9月24日開催委員会において承認
中間報告	<p>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <p>今年度は設立2年目にあたる。下記業務について取扱っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 臨床医学教育研究に係る遺体準備・処理業務及び遺体情報管理に関すること 現在までに今年度使用予定遺体4体分につきThiel法固定を行い、ご遺体を維持・管理している。 臨床医学教育研究の自己評価に関すること 臨床医学教育研究の指導監督に関すること 臨床医学教育研究の統括に関すること 今年度研修の案内を4診療科主任教授に送付し、うち2診療科より今年度開催に関する返答を得た。この2診療科の研修開催に向け、倫理審査申請書・研究計画書・オプアウト文書等の文書作成をサポートし、いずれの計画も倫理委員会による承認を得た。整形外科学講座2件・外科学講座1件の研修開催を予定している。 日本外科学会内設置 CST 推進委員会への報告等連絡調整に関すること 昨年度行った整形外科研修につき、5月に報告を行った。 その他センターの目的を達成するために必要な事項に関すること <p>②事業計画の実行課題 昨年度は整形外科学講座による研修1件であったが、今年度はこれを上回る件数の研修開催を目指す。現時点で3件の研修を執り行う予定となっている。</p> <p>③自己点検評価報告書の問題点 なし</p>	令和4年1月31日開催委員会において承認
最終報告	<p>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <p>今年度は設立2年目にあたる。引き続き、下記業務について取扱っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 臨床医学教育研究に係る遺体準備・処理業務及び遺体情報管理に関すること 現在までに今年度使用予定遺体6体分につきThiel法固定を行い、ご遺体を維持・管理している。うち3体は下記診療科研修にて既に用いている。残り3体は3月に予定している研修に使用予定。 臨床医学教育研究の自己評価に関すること 臨床医学教育研究の指導監督に関すること 現在までに、2022年1月7日(金)～9日(日)、2月6日(日)、2月7日(月)～8日(火)の日程にて、それぞれ整形外科学講座・外科学講座・整形外科学講座の研修を執り行った。臨床解剖教育研究センターとして、監督業務を執り行った。3月11日(金)～13日(日)の予定で整形外科学講座が研修を予定している。各回にて他診療科からの見学を行っており、現時点で、麻酔科学・脳神経外科学・耳鼻咽喉科学・形成外科学・産婦人科学等の講座の教員が見学した。解剖学講座よりご遺体を用いた基礎研究に関する研究計画が提出され、現在指導監督を行っている。 臨床医学教育研究の統括に関すること 	令和4年2月28日開催委員会において承認

	<p>今年度研修の案内を4診療科主任教授に送付し、うち2診療科より今年度開催に関する返答を得た。この2診療科の研修開催に向け、倫理審査申請書・研究計画書・オプトアウト文書等の文書作成をサポートし、いずれの計画も倫理委員会による承認を得た。上記のとおり、既に3件分の研修の統括を行った。3月のもう1件の研修も統括を行う予定である。</p> <p>(5) 日本外科学会内設置 CST 推進委員会への報告等連絡調整に関すること 昨年度行った整形外科研修につき、5月に報告を行った。今年度は4件分の研修を行うこととなるため、5月までに CST 推進委員会への報告を行う予定である。</p> <p>(6) その他センターの目的を達成するために必要な事項に関すること 厚生労働省より「実践的な手術手技向上研修事業」の事業委託先公募がなされたため、2021年5月にこれに応募した。8月末日付けにて不採択の返答があった。今後も積極的に外部資金調達を試みる予定としている。</p> <p>②事業計画の実行課題 昨年度は整形外科科学講座による研修1件であったが、今年度は既にこれを上回る3件の研修を行った。現時点で更に1件の研修を執り行う予定となっている。</p> <p>③自己点検評価報告書の問題点 なし</p>	
<p>自己評価</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のご遺体を用いた臨床教育である手術手技研修（1件）について、外科学会内・CST 推進委員会へ報告を行った。 ・厚生労働省「実践的な手術手技向上研修事業」の事業委託先公募に応募した（結果は非採択）。 ・ご遺体を用いた臨床教育である手術手技研修に関し、昨年度1件を上回る3件の研修を統括し、更に1件を統括予定としている。 また、多数の診療科から見学を受けた。 ・ご遺体を用いた基礎研究1件の指導監督を行っている。 	
	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度以降も遺体準備・処理業務について滞りなく進めるとともに、ご遺体を用いた臨床教育（手術手技研修）の回数および実施診療科数の向上を図る。 ・可能な限り外部資金調達の可能性を探る。 ・ご遺体を用いた基礎研究や臨床研究についても振興を図る。 	